

のぼりペコ

広報

●ポニーの巡回飼育体験

メスのポニー「チャコ」(9歳)が生活科の授業の一環として、市内9小学校を巡回しています。札内町で畜産業を営む福田秀男さんの協力で昨年から行われ、子供達は柵を囲んで「チャコ、チャコ」と呼びかけ、草をあげながら生き物とのふれあいを体験しています。



特集

- ◆川上公園野球場オープン
- ◆リサイクルってかんたん
- ◆防災シリーズ1
- ◆きらり
- ◆登別大谷高校女子バレー部
- ◆佐々木みきさん

8/1
1994
No.526

川上公園野球場

オープン



本格的野球場が完成 快適なコンディションでプレーを

平成3年度から建設を進めていた川上公園野球場が完成しました。野球場の総工費は約2億3千万円です。

球場の両翼は91.5m、センターまでが116m。収容人数は、バックネット裏のベンチに約200人、1塁側、3塁側の芝生席に約360人が可能で、スロープを配した障害者の方の観覧席も設けています。

球場の特色は、プレーヤーの安全を考慮したクッション製の内外野フェンス、バックスクリーンと兼ね合わせたスコアボードは本部席から操作できる電動式を設置。排水設備も充実し快適なコンディションでプレーができます。道道弁景観別線が通るレフト側には、高さ6



▲休憩広場



▲モダンな外観のトイレ

野球場の使用料は、6月15日号広報をご覧ください。使用申し込みは公園管理事務所（亀田記念公園内 ☎2511）へ。

この防球ネットが62mにわたって張られ、安全対策に配慮しています。緑に囲まれた新球場は、65台収容の駐車場とトイレ、花壇、休憩所を設置し、広場は、小高く土をつみ上げ芝を吹き付けて庭園風に整備し、オンコやエゾヤマザクラを植樹しました。川上公園は、野球場の完成で公園の全体整備がほぼ完了です。これからは、市民の憩いの公園として大いに利用してください。



▲スロープを配した障害者の方の観覧席が設けられています

落成記念式典

川上公園野球場の完成を祝して7月22日落成記念式典が行われました。

天皇賜杯第49回全日本軟式野球北海道大会の開会式を前に、球場入口の広場で行われた式典には、関係者約1000人が出席し、大会出場選手も式典を見守りました。上野市長の式辞の後、来賓の井野厚道議、岩本政光軟式野球連盟会長が祝辞を述べました。続いて、テープカットを行い、くす玉を割って、鳩が空に放され、施設完成を祝いました。



式典の後、新球場の「こけら落とし」として、天皇賜杯第49回全日本軟式野球北海道大会の開会式が行われ、北海道地区の予選を勝ち進んだ15チーム約200名の選手が、幌別中学校のプラスバンド演奏に合わせて入場行進し、緑に囲まれた球場にカラフルなユニフォーム姿が勢ぞろいしました。

記念すべき大会の優勝チームは、地元から出場の医療法人三愛病院で、9月15日から宮崎県で行われる全国大会に出場します。



▲記念の球場開きとなった天皇賜杯第49回全日本軟式野球北海道大会。7月22日から25日まで熱戦を繰り広げました。

川上公園全体図



① 野球場	⑨ 多目的広場
② トイレ	⑩ 野外ステージ
③ 休憩広場	⑪ 冒険広場
④ 花壇	⑫ ジャブジャブ池
⑤ 駐車場(65台収容)	⑬ 休憩広場
⑥ ※(30台、バス4台収容)	⑭ トイレ
⑦ 入口広場	⑮ 多目的運動広場
⑧ 郷土資料館	

ってかたん!

毎日出るゴミ。
捨てる前に、もう一度
考えてみましょう。



▲町内会資源回収のようす

私たちが、毎日出すゴミの中には、資源として使えるものがたくさん混じっています。
リサイクルは、ちょっとした手周りと行動でどなたでもできます。市では、一人でも多くの方がリサイクルに参加して、できるだけ資源となる物を回収するため、町内会を対象とした、集団資源回収の「登別方式資源リサイクルシステム」をすすめています。このシステムは、平成4年4月から始まり、現在100の町内会のうち53町内会が取り組んでいます。
この取り組みにより、今までゴミとして燃やされたり、最終処分場に埋め立てられていたゴミは、資源となり活用され、ゴミの減量にもつながっています。

ダンボール・菓子箱・洋服箱	雑誌・本類	新聞紙・チラシ
<p>それぞれ別にして折たたんでしぼる。</p>	<p>ひもで十文字にしぼる。</p>	<p>新聞紙とチラシを別々にして、ひもで十文字にしぼる。チラシは、油紙、カーボン紙、ろう紙は除いてください。</p>
牛乳・コーヒーなどのパック	タオル・シーツ・カーテン・上着 下着・背広・オーバー・セーター	ビール・コーラ・サイダー・ジュース 一升ビン(ケース含む)
<p>市内には、回収ボックスを設置しているお店もあります。</p>		
<p>洗って開き、乾燥させてしぼるか、紙袋などに入れる。(ビニール袋には入れないでください)</p>	<p>ダンボール箱に入れるか、まとめてしぼる。下着は洗濯をしてから出してください。防水性、綿の入った物は除きます。</p>	<p>口金を取り、ビンの中に異物を入れない。</p>

第一種回収資源の種類と出し方

登別方式資源リサイクルシステムに取り組んでいる町内会に住んでいる方は、町内会で定めた日に出してください。

まだ、取り組まれていない町内会に住んでいる方は、廃品回収業者に出すなどしてください。

ご自分の町内会がリサイクルシステムを行っているかどうかは、環境衛生課が各町内会にお問い合わせください。

リサイクルに出すばかりではなく、再生品の積極的な利用もお願います。



エコマークのついている商品を積極的に使いましょう



「環境保全型商品」



リサイクル

第二種回収資源の種類と出し方

雑びん (油ビン・化粧品ビン・ウイスキー・清涼飲料水など)	空き缶 (アルミ缶・スチール缶・スプレー・缶詰の缶)	鉄くず・金属くず・自転車
		<p>金属類がほとんどない冷蔵庫・テレビ・掃除機などの家電類は除きます。小さい物はまとめてしぼるが、ダンボール箱に入れる。 毎月5日の朝にびん・缶のドラム缶横に出してください。</p>
<p>口金をとって無色透明・茶色・その他の色に分けて出す。黒ビンは除きます。ビンの中には異物を入れないでください。(ドラム缶の中には、ビニール袋などは入れないでください)</p>	<p>缶の中に異物を入れないで、缶詰の缶は中を洗ってから、スプレーの缶は、穴を空けてから出す。</p>	

登録資源リサイクル協会が、回収します。

不用品ダイヤル市



＝ 売り・買い ＝

今まで市民課が窓口だった不用品ダイヤル市は、今月から環境衛生課(☎2958)が担当します。

不用品ダイヤル市(広報毎月15日号に掲載)は、家庭や事業所などで不用となったものや欲しいものを電話で登録していただきます。登録期間は6か月間で更新もできます。値段や運搬は本人同士で相談していただき、登録した物品は、提供の方が保管します。

ゴミやリサイクルなどに関する問い合わせは、環境衛生課(☎2958)です。

家庭や事業所などで不用となった再利用可能な家具や机などを持ち込んでください。
持ち寄られたリサイクル品の状態によって、公開します。引き取りは無料で希望者多数の場合は抽選します。



のぼりべつリサイクルハウスを
活用してください
＝ 無料です ＝



▽利用時間 月曜日から金曜日まで(祝日は除く)の9:00~16:00
※持ち込み・持ち出しは、皆さんが行っていただきます。
取り扱う物
タンス・食器棚・本棚・テーブル・机・椅子・長椅子・自転車・オルガン・スキー・スケート・ゴルフ用品など

災害は、 忘れた ころに やってくる



▲昭和58年9月の大雨災害で増水した来馬川



▲昭和58年9月の大雨災害で、崩れた登別温泉へ至る道道(登別東町通称汐見坂)

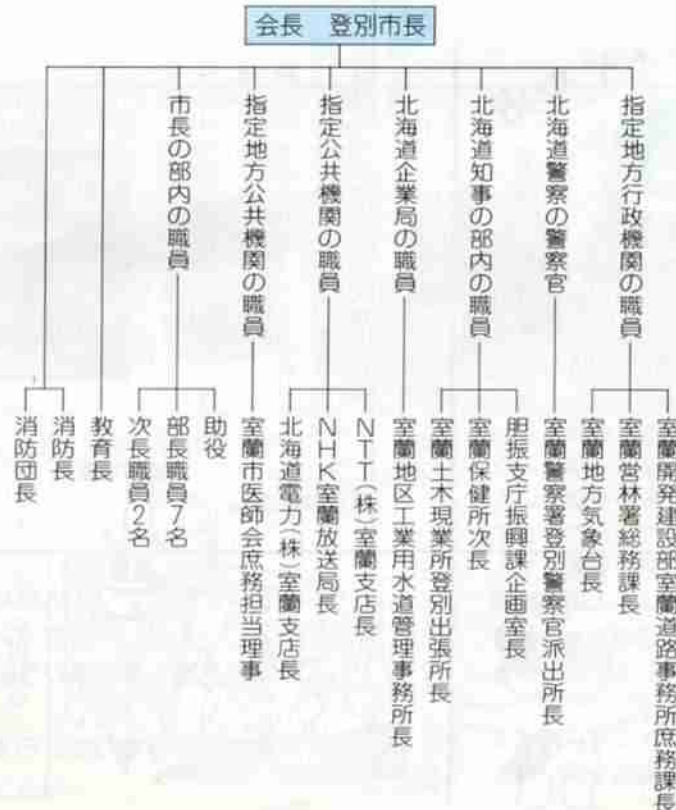
登別市は過去に度々集中豪雨など大雨による大きな災害を受けてきましたが、幸い最近では大きな被害はなく、特に人的被害は皆無となっています。

これは国や北海道・市が行った治山や河川改修、排水路整備などが各地区で進められたことや防災訓練などを通じて広く市民の皆さんの防災意識が高まり、降雨の予報などの情報を正しく判断されて防災に対する適切な対応ができたことによるものと考えています。

しかし、昨年は釧路沖地震や北海道南西沖地震といった規模の大きい地震が相次いで発生し、道内各地で大きな被害を被ったように、災害はいつ起こるか予測することはできません。

そこで、改めて災害の恐ろしさと防災対策の重要性を認識するため、8月号、9月号で防災に対する市の対応とどう備えるべきかを掲載します。

防災会議組織図



1. 登別市防災会議の設置
市は、登別市地域防災計画を作成し、その推進を図るとともに災害が発生した場合、災害に関する

情報収集や関係機関の連絡調整を行うことを目的に、登別市防災会議を組織し、市長が次の機関の職員を委嘱しています。

2. 登別市地域防災計画

登別市地域防災計画は、災害対策基本法に基づき、市民を災害から保護するため、防災業務全般にわたり計画的に迅速・的確に行うための具体的事項についてを定めており、防災に関する活動はこの計画に基づき行われます。

3. 登別市災害対策本部の設置

市長は、災害が発生した時、または発生の恐れがある時に防災会



議の意見を聞き、災害対策本部を設置します。

また、災害の未然防止や災害発生とともに直ちに非常活動ができるように、状況に応じて次の非常配置体制をとり、市役所職員を配置します。

●第1非常配備体制

大雨や暴風、津波などの警報が気象台から発表されたとき

・総務課職員(防災担当)：市役所内に配置し、気象台やその他関係機関と連絡をとり、気象情報雨量などを調査します。

・建設部職員：河川水位、潮位、道路状態などの調査と危険予想箇所の調査を行い、各地区の状況の把握と臨機な対応をします。

・消防職員：各地区の巡回をします。

(第1非常配備体制は、災害対策本部の設置の有無にかかわらず、警報が発表された場合に配置します)

●第2非常配備体制(災害の発生が予想されるとき、または災害が発生したとき)

災害発生とともに、そのまま直ちに非常活動を開始するため、職員のおおむね3分の2以内の職員で災害対策にあたります。

●第3非常配備体制

全職員が災害応急対策にあたります。

4. 避難所標識の設置

市は、避難場所に安全に避難できるように計画的に避難所の標識や避難誘導標識を設置しています。



5. 避難所の設定(一覧表)

災害時に避難することが必要な場合に備え、市内各地区に第1次避難所(屋外避難所)60所、第2次避難所(屋内避難所)96所を設定しています。

第1次避難所は、一時的に避難する近くの広場・公園などで、第2次避難所は小、中学校の体育館や老人憩の家などの建物を利用して、給食や物資の貸与などを行う施設です。万一の災害に備えて家族全員で避難所を確認しておくことが必要です。

第2次避難所は9月号で掲載します。

第1次避難所(屋外避難所)

地区	避難所の名称	所在地
カルルス	カルルスサンスポーツランド	カルルス町1~3
登別温泉	登別温泉小学校グラウンド	登別温泉町184
	登別温泉中学校グラウンド	登別温泉町123~1
	登別温泉ケーブル駐車場	登別温泉町224
登別	登別ビーチパーク	登別東町1丁目
	登別中学校グラウンド	登別本町1丁目1~1
	旭公園	登別本町1丁目18~1
登別小学校グラウンド	登別本町3丁目25~2	
	登別小学校グラウンド	登別本町3丁目25~2
札幌	札幌小中学校グラウンド	札幌町73~3
	幌別中学校グラウンド	千歳町3丁目1~3
	市営陸上競技場	千歳町3丁目4
	つくし公園	千歳町4丁目5
	すすらん公園	千歳町6丁目1
	しおみ公園	幌別町2丁目25
	幌別1号公園	幌別町4丁目19~1
	幌別東小学校グラウンド	幌別町8丁目16~1
	常盤公園	常盤町2丁目35~1
	東公園	中央町1丁目13
	西公園	中央町3丁目10~1
	中央公園	中央町3丁目21~1
	北公園	中央町5丁目20
	幌別小学校グラウンド	中央町6丁目19~1
	緑ヶ丘公園	中央町7丁目30
	柏木公園	柏木町1丁目28
	もみじ公園	柏木町3丁目36
	富士2号公園	富士町5丁目7
	富士1号公園	富士町7丁目1~8
	登別市民会館駐車場	富士町7丁目33~1
	西陵中学校グラウンド	片倉町5丁目12~1

地区	避難所の名称	所在地
幌別	幌別西小学校グラウンド	片倉町5丁目13
	登別市総合福祉センター ふれあい広場	片倉町6丁目6~1
	新川公園	新川町3丁目7~14
	かえで公園	新川町4丁目無
	のぞみ公園	桜木町2丁目
	桜木公園	桜木町4丁目6
	青葉小学校グラウンド	青葉町3~3
	登別市立総合体育館駐車場	若山町2丁目26~1
鉾山	市民研修センターグラウンド	鉾山町8~3
	室開建室蘭道路事務所駐車場 (車庫付近を除く)	大和町2丁目34
鷺別	緑陽中学校グラウンド	富岸町1丁目11~1
	富岸小学校グラウンド	富岸町2丁目11~4
	いなほ公園	富岸町2丁目34
	ことぶき公園	新生町1丁目24
	わらべ公園	新生町2丁目15
	くさぶえ公園	新生町3丁目14
	なかよし公園	新生町4丁目3
	榆の木公園	栄町1丁目4~1
	若草小学校グラウンド	若草町1丁目1~2
	若草公園	若草町1丁目2
	若草中央公園	若草町2丁目
	さわやか公園	若草町2丁目10
	めぐみ公園	若草町2丁目32
	若草1号公園	若草町3丁目11
	めばえ公園	若草町4丁目4
	のびのび公園	若草町4丁目20
	わかば公園	鷺別町2丁目
	鷺別中学校グラウンド	鷺別町4丁目36~6
	鷺別小学校グラウンド	鷺別町4丁目36~21
	室蘭自動車学校練習場	美園町4丁目23
	美園運動広場	美園町5丁目36

夢委員会21 報告書を提出



▲上野市長に報告書を手渡す夢委員会21の川西代表

この報告書は、平成8年度を初年度とする市の新総合計画の策定作業に合わせ、30、50年後を見据えて描いた登別市の将来像やイメージを新総合計画の基本構想に反映させるため、市の委嘱を受けて設立された「のぼりべつまちづくり夢委員会21」（代表川西悟さん）のメンバー49人が、まちの将来の夢を報告書としてまとめ、6月29日市長に提出しました。

○まちづくりの基本理念

報告書は、序論、総論、各部会の提言、具体的事例と議事録から構成されています。

まちづくりの基本理念は、「郷土登別の歴史を知り、自然と調和し、地域資源を生かし、意欲ある豊かな感性を育て、地域に誇りをもって貢献し、互いに学びあい、世界に誇れるものを創造し、輝きとときめく登別をつくる」です。これらの中心となるのが「ひと」であり、「ひと」が輝けば「まち」が輝き、「まち」に活力が生まれるとしています。

○まちづくりのテーマ

テーマ（スローガン）は「輝き、ときめくのぼりべつ夢"21"」です。

ひとが輝いてまちが輝いて、ときめく心をもつ、夢のあるふるさとをつくっていきましょうというのが夢委員会21の願いです。

テーマは、 「輝き、ときめくのぼりべつ夢"21"」

○各部会での提言

夢委員会21は、愛ランド部会（健康・高齢化・福祉）ともいき部会（環境・安全）ときめき・夢部会（教育・文化）ハーモニー部会（都市基盤）きらめき部会（産業・経済・観光）の5部会に分かれ、議論を行いそれぞれ提言をまとめています。

★愛ランド部会では、「心豊かな暖かいまち」をテーマに

①歩く

②あいさつ

③おしゃべり

④スポーツ

⑤ボランティア

⑥交流の環境づくり

を提言しています。

★ともいき部会では、「自然を保存・保護・活用し美しさと豊かさを創造するまち」をテーマに

①人づくり（環境教育）

②登別を知る

③自然豊かな登別らしさの確立（景観づくり）

④安心して暮らせる環境づくりを提言しています。

★ときめき・夢部会では、「豊かさ、ときめきと、夢のあるまち」をテーマに

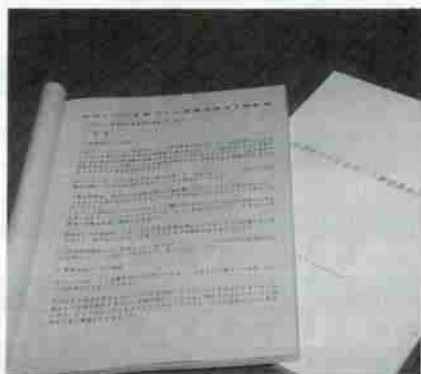
①人間形成の場としての図書館の充実

②感性、感受性を育てる劇場の設立

③世代を超えた交流の場の設立などを提言しています。

★ハーモニー部会では、「全てのものと調和のとれた都市基盤を整備し、ふるさとらしさを演出するまち」をテーマに、行政の横の連

▲熱心に議論が重ねられた夢委員会21の討議風景



携と市民の参画をもとに

①人間主体の登別らしい公園整備

②機能分担を考えた道路づくり

③将来を見据えた公共施設づくりを提言しています。

★きらめき部会では、「オンリー・ワンを目指して、輝き・ときめく産業の育つまち」をテーマに

①地域資源の積極的活用

②産業としての観光の拡大

③地域全体としての産業社会の世界戦略を提言しています。

なお、この報告書は、市役所企画調整室のほか、各支所、図書館にも置いてありますのでご覧ください。

▽問い合わせ 企画調整室（☎1122）

平成7年度登別市職員を募集

1.採用職種・採用予定人員

職 種	試 験 区 分	採用予定人員
事 務 行 政	大学・短大卒業	4名程度
	高 校 卒 業	2名程度
技 術 土 木	大学・短大卒業	3名程度
幼 稚 園 教 諭	大学・短大卒業	1名程度
消 防	短大・高校卒業	3名程度

2.試験の日時・場所

区 分	日 時	場 所
第1次試験	9月18日(日) 午前10時	登別市民会館 (☎1100)
第2次試験	10月下旬予定	別途通知します

3.受け付け 8月19日(金)まで 9:00~17:30

4.申し込み・問い合わせ 職員課・各支所に備え付けの申込書に記入し、職員係(本庁3階)へ提出してください。(☎1132内線326・327)

5.受験資格

職 種	試 験 区 分	要 件
事 務 技 術	大学卒業	大学を卒業または平成7年3月卒業見込みの方で、昭和39年4月2日から昭和48年4月1日までに生まれた方
	短大卒業	短期大学か同程度の専門学校を卒業または平成7年3月卒業見込みの方で、昭和44年4月2日から昭和50年4月1日までに生まれた方
	高校卒業	高等学校を卒業または平成7年3月卒業見込みの方で、昭和46年4月2日から昭和52年4月1日までに生まれた方
幼 稚 園 教 諭	大学卒業または短大卒業	①大学か短期大学若しくは、同程度の専門学校を卒業または平成7年3月卒業見込みの方で、昭和44年4月2日から昭和50年4月1日までに生まれた方 ②幼稚園教諭と保育資格の両方を有する方または平成6年度中に幼稚園教諭と保育資格の両方を取得見込みの方
	短大卒業	短期大学か同程度の専門学校を卒業または平成7年3月卒業見込みの方で、昭和43年4月2日から昭和50年4月1日までに生まれた方
消 防	高校卒業	高等学校を卒業または平成7年3月卒業見込みの方で、昭和43年4月2日から昭和52年4月1日までに生まれた方

※受験資格(試験区分)の注意事項

- ①大学を卒業または平成7年3月卒業見込みの方は、短大卒業と高校卒業区分での受験は認めません。
- ②短大が同程度の専門学校を卒業または平成7年3月卒業見込みの方は、高校卒業区分での受験は認めません。
- ③大学・短大・高校は学校教育法に基づくものです。

無料墓参バスを運行します

富浦墓地行き 8月13日(土)~16日(火) ▷問い合わせ 市民課(☎851855)

◎若草・幌別地区発

〈行き〉

上鷺別入口バス停	発	10:00	13:00
旭ヶ丘団地バス停		10:01	13:01
若草入口バス停		10:02	13:02
若草中央バス停		10:03	13:03
緑ヶ丘団地バス停		10:04	13:04
千代の台団地バス停		10:05	13:05
新生町1丁目バス停		10:06	13:06
新生町2丁目バス停		10:07	13:07
富岸小学校バス停		10:08	13:08
道南バス若山営業所バス停		10:09	13:09
総合体育館前バス停		10:10	13:10
桜木団地バス停		10:13	13:13
緑町2丁目バス停		10:14	13:14
登別大谷高校前バス停		10:15	13:15
阪井商店前		10:17	13:17
みゆき旅館前		10:20	13:20
電報電話局前		10:21	13:21
市民プールバス停		10:24	13:24
千歳4丁目バス停		10:25	13:25
富浦墓地	着	10:35	13:35

〈帰り〉

富浦墓地	発	11:35	14:35
------	---	-------	-------

◎幌別・登別地区発

※13日午前の便は2台運行します

〈行き〉

登別高校バス停	発	10:00	13:00
幌別西小学校バス停		10:01	13:01
市民会館バス停		10:02	13:02
ホームストア幌別店バス停		10:03	13:03
社宅十字街バス停		10:04	13:04
中央町5丁目バス停		10:05	13:05
幌別小学校バス停		10:06	13:06
幌別東小学校バス停		10:08	13:08
ソーダー工場前バス停		10:09	13:09
三洋工業前バス停		10:10	13:10
幸町3丁目バス停		10:12	13:12
すすらん団地バス停		10:13	13:13
富浦バス停		10:15	13:15
登別駅前バス停		10:20	13:20
登別バス停		10:21	13:21
登別中学校前バス停		10:22	13:22
登別小学校前バス停		10:23	13:23
富浦墓地	着	10:25	13:25

〈帰り〉

富浦墓地	発	11:25	14:25
------	---	-------	-------

◎上鷺別・鷺別地区発

〈行き〉

トヨタ上鷺別寮	発	10:00	13:00
松木商店前		10:02	13:02
鷺別中学校前バス停		10:06	13:06
鷺別小学校前バス停		10:07	13:07
東鷺別バス停		10:08	13:08
はまなす団地バス停		10:09	13:09
帝国酸素バス停		10:11	13:11
西富岸バス停		10:13	13:13
富岸バス停		10:15	13:15
開発局前バス停		10:16	13:16
あかしや団地バス停		10:18	13:18
幌別本町前バス停		10:23	13:23
市役所入口バス停		10:24	13:24
富浦墓地	着	10:30	13:30

〈帰り〉

富浦墓地	発	11:30	14:30
------	---	-------	-------

◆供物などはお持ち帰り願います!◆

墓前の供物などは、供えたままにしておきますと、カラスやキツネなどが食い荒らし、墓石やお墓の周りをよごしますので、お持ち帰りいただきますようお願いいたします。



▲国際交流会の会員宅でゆかたを着て茶道を体験したふたり(左がシーセルさん、右がヘレーネさん)

「シーセルとヘレーネです。登別のみなさんよろしく」

デンマークからの研修生

今年6月デンマークの高校を卒業したばかりのシーセル・アンボシウスさん(20歳)とヘレーネ・ビヤインさん(19歳)の二人が、9月30日まで「研修生」として登別市に滞在します。

市が、国際交流の輪を広げようと「研修生受け入れ事業」を今年度初めて行い、デンマークの高校校長秘書で登別市ふるさと大使のリース・サンダーさんの紹介によって訪れました。二人の受け入れには、市民組織のほりべつ国際交流会が窓口となり、会員宅を1か月ずつ交代でホームステイします。滞在中は、英語指導、デンマーク語と英語の会話集の製作や市民交流を深めます。二人は、登別での生活や日本の文化に触れることを楽しみにしています。

私が見た登別

皆さん親切で開放的です



いま い ひかる
今井 光 さん
(登別温泉町・45歳)



—いつから登別に?
平成元年10月です。仕事をするために来ました。

—それまではどこに
生まれは東京都中野区。12歳から23歳までは杉並区に住んでいました。その後は、仕事の関係で全国の町を1・2年ごとに転々としていました。

—私が住んでいた頃の杉並区は、人口約40万人で郊外と都心の間位置する住宅都市でした。

—来る前の登別のイメージは
やっぱり、温泉。北海道のイ

メージは牧歌的で欧州の雰囲気。登別と全国の町を比べて皆さん親切です。知り合ったばかりの方が、気軽に夕食に誘ってくれたりしますよね。北海道の人には、開拓者精神のようなものがあるんでしょうか。開放的です。道外では、ちょっとないですよ。

—住んで見ての印象は
自然に恵まれていますね。にぎやかな温泉街から5分ほどの所に原始のままの自然林があり、そこを林道で散策できる。全国でも珍しいことだと思います。

—町を知る秘訣は
その町をよく知るには、まちづくりに参加することが近道だと思います。私も「夢委員会」に参加していますが、利害関係なしに多くの方と知り合え、登別のいろいろなことをたくさん知ることができました。

今年の国際家族年を記念して「国際家族年・市民シンポジウム」が7月14日、市民会館で開かれ、約100人の市民が家族の在り方について考えました。

講演では、森岡清志さん(東京都立大学人文学部助教授)が「多様化する家族像」をテーマに、「核家族化などによる家族機能の低下」などの問題を提起しました。

これ受け、3名の市民代表がパネルディスカッションを行い、最後にコーディネーターの川島辰雄さんが「家族内の問題解決には今後、地域社会や行政がどうかかわるかが課題」と締めくくりました。

家族の在り方を 今一度考えてみよう



▲国際家族年・市民シンポジウム

東 奔



郷土資料館では、展示している8台の糸車を使って昔懐かしい体験をしようと7月9日「糸紡ぎ体験会」を開きました。

札内町のハッピー牧場から1袋の羊毛の寄贈を受け、下準備を済ませたフワフワの毛玉を手に参加した子供達は、糸車をコトコト足で回しながら挑戦。慣れない手つきで糸をよりながら切らないようにと指先を真剣に見つめていました。

同館は、毎月第2土曜日に子供達が楽しく学べる事業を開催しており、この日は親子20人が昔の生活を体験しました。今回使用した糸車は、ボランティアの皆さんが復活させたものです。



▲手拍子をしながら、民謡歌手佐々木基晴さん(円内)の歌を楽しんだお年寄り

20歳の節目をお祝い 恵寿園 開園20周年記念式典

市立養護老人ホーム・恵寿園の開園20周年記念式典が7月10日行われ、入所者とその家族や職員など関係者約100人が出席しました。

この日は、雨が降るあいにくの天候のため園内の集会室と食堂が会場に。式典の後、祝賀会に入り、ゲストの民謡歌手佐々木基晴さんのユーモアたっぷりのおしゃべりと江差追分など4曲の民謡を聞きながら20歳のお祝いをしました。

恵寿園は、昭和49年5月老人福祉施設として幌別ダム近くの川上町に開園。地元をはじめ近隣からのお年寄り94人が入園し、生花や書道などの趣味のクラブ活動や毎月の行事で楽しく過ごしています。

節目を記念し、入園者には湯飲み茶碗、招待者には入園者手作りの刺し子のふきんが贈られました。

「ふわふわの羊毛で 糸紡ぎ体験」



▶足と手のリズムがとれて、だんだんと上手になった参加者たち

仲間たち

独居老人宅への訪問活動
「みんなの笑顔に会いたいから」



美園地区婦人
ボランティアクラブ
代表 稲垣弘子さん
(☎864790)

ひとり暮らしのお年寄りのひとり暮らしが多発した昭和57年、「せめて私たちの地区からは、悲しい「孤独死」を出さないように」と、上鶯別地区の民生児童委員の女性3名が中心となり14名で発足。現在、会員は17名です。年3回手作りの蒸しパンを持ってひとり暮らしのお年寄りのお宅を訪問し、話相手になったり、事故のないように気を配り、クリスマスには手作りのプレゼントを持って訪問しています。

「活動を始めて12年になり、私たちの訪問を楽しみに待っていてくれます。お年寄りとも顔なじみになって、心の通

「美園地区には、ひとり暮らしのお年寄りが64名います。日ごろから会員たちが声掛けをしてお年寄りの様子を見守っています。私たちの思いは同じですからね、チームワークはバッチリです」と、会代表の稲垣さんはメンバーの強い絆を語ってくれました。

毎月1回老人憩いの家「光和園」で行事の打ち合わせを行うほか、特別養護老人ホーム「緑風園」への敷布づくり。廃品回収の益金などでクリスマスプレゼントを製作します。



きらり

4年ぶり3度目の全国大会出場を導く 国際試合も経験

登別大谷高校バレー部

佐々木みきさん

(幌別町・18歳)

登別大谷高校女子バレーボール部が、4年ぶり3度目の高校総体全国大会への出場切符を手にし、富山県で行われる大会に向けて猛練習中です。

なかでもチームリーダーの基礎・佐々木みきさんは、ジュニア女子の日本対イタリアとの交歓試合のメンバーに選ばれ、7月17日に総合体育館で行われた最終戦では得意の右からのコース打ちを武器に大活躍しました。大きな試合を終えて、休む間もなく全国大会に向け汗を流す佐々木さんに話を聞いてみました。

「バレーを始めるときかけを教えてください。」「中学校でバレー部の顧問の先生に勧められたのがきっかけです。それまではクラブ活動でバスケットをやっていた程度でスポーツは好きでしたけどバレーをやったことは全くなかったんです。」

「一日にどれくらい練習するんですか。」「4時間です。部活動はほとんど毎日あるんですけどテスト中は休みなので、自分でランニングしたりしています。」

「練習は苦しいですか。」「そうでもないです。今はエースをやっているんですけど、点数をいっぱい取るのがエースの役目だと思って練習しています。」

点数が取れば楽しいですから。」

「一番苦しいときはどういう時ですか。」

「ケガをしたときです。一年生の時はケガばかりしてました。見学していると試合に出たくてうずうずしてきます(笑)。」

「バレーをやってよかったと一番感じるのはどんなときですか。」

「優勝した時や、日本ジュニア女子チームに選ばれた時とかです。」

「失礼ですけど今身長は何センチですか。」「182cmです。男子に間違われる事もあるんです(笑)。」

「今3年生ですね。卒業後の進路は。」「まだ決めてないんですけどバレーは続けたいです。」

「将来の目標は。」「やっぱり、全日本に入ることです。」

「インタビュの後、佐々木さんの手を見せてもらいました。全日本クラスの強力なスパイクを打つ手は、意外な程しなやかで優しい手でした。」



◀地元出場選手として花束の激励を受けた佐々木選手

友達の輪

わが家の自慢

前回の渡部さんからのご紹介で山形貞子さんをお訪ねしました。

「俳句をはじめて30年になります。本格的には旭川に本部のある俳誌『青女』に入会した18年前からです。青女の会員で結成した若草支部『若草俳句会』も今年は15周年で、今は記念の誌集作りに大忙しです。」

同会は現在7つの句会に成長して会員も65名。「皆さんに支えられ助けられてここまでできました。俳句は省略の文学。最少の文字で心を伝えるむずかしさが魅力です。私にとって俳句は日記代わり。句を見ただけでその時がよみがえるんですよ」とは、さすがベテラン!

恥ずかしそうに見せてくださったご自慢の一句は、青女の大会で“秀句”に選ばれた「虫を聴くほかは何んにも考えず」でした。

「寝る時も枕元には紙とペン。浮かぶと電気をつける間も惜しみ暗闇の中で書くんです。どこにズレてもいいように大きな紙に」と笑う山形さん。「興味のある方、一度俳句会を見に来ませんか」とPRも忘れません。俳句の他にも登別市社会福祉協議会理事、行政相談委員、民生児童委員など7つの顔を持つ大忙しの山形さん。

どこにそんなパワーが?とお聞きすると「私の前世は皆さんにたくさんお世話になったみたい。今はその恩返しです」と、予定でびっしりのカレンダーを振り返り笑ってくださいました。

《市民リポーター 東海林 明美》
次回は、村田健二さん(美園町)です。



“秀句”に選ばれた一回



やま がつ さだ こ
山形貞子さん
(若草町・60歳)

となりまち ホットライン

室蘭市



全国中学校サッカー大会
8月20日(土)~25日(木)

全国32校512人の選手たちが北の大地を舞台に躍動と感動のドラマを展開してくれます。皆さんの温かい応援をお願いします。

▷開会式 20日(土)15時入江運動公園陸上競技場(荒天時は市体育館)

▷競技日程 ●入江運動公園陸上競技場
21日(日)1回戦4試合、24日(水)準決勝2試合、25日(木)決勝●同公園多目的広場
21日(日)1回戦4試合、22日(月)2回戦2試合、23日(火)準々決勝2試合●同公園芝生広場
21日(日)1回戦4試合、22日(月)2回戦2試合、23日(火)準々決勝2試合●祝津公園グラウンド
21日(日)1回戦4試合、22日(月)2回戦4試合

▷開始時間 各日とも10時から

▷問い合わせ 北辰中学校(☎28188)

伊達市



ヨットやカヌーで
マリンスポーツを
体験してみませんか

天然の良港に恵まれた有珠地区にある伊達市B&G海洋センターでは、ヨットやカヌーを貸し出しています。

初めて体験される方には、指導者がアドバイスします。また、団体のご利用もできますので、お気軽にお越しください。

この夏休みは、ご家族そろってマリンスポーツを楽しんでみませんか。

▷開館時間 午前9時から午後5時まで

▷休館日 毎週月曜日

▷利用料金 OPヨット200円、カヌー100円、ペアカヌー200円(いずれも1時間の料金です)

▷申し込み・問い合わせ B&G海洋センター(☎01422475)

中学生海外 派遣事業



前列左から樋口譲さん(緑陽中学校)・松倉孔美さん(西陵中学校)・工藤信幸さん(登別温泉中学校)
2列目左から林昇市さん(幌別中学校)・福原裕美子さん(西陵中学校)・高橋絢さん(鷺別中学校)・山口奈美恵さん(登別中学校)

市は、次代を担う中学生に国際社会に対応できる豊かな人間性を身につけてもらうことを目的に、「登別市中学生海外派遣事業」を平成4年度から「いきいき人とまち基金」を活用して行っています。夏休み期間中の今月10日から21日まで、次の中学2年生7名がデンマークとスウェーデンの2カ国を訪問し、ホームステイや学校訪問などを通して国際交流を深めてきます。

平和を祈って

黙とうを

原爆の日

終戦記念日

原爆死没者と戦争犠牲者を追悼し、世界恒久平和の確立を祈念するため1分間のサイレンを吹鳴します。市民の皆さんには、サイレンと同時に1分間の黙とうを捧げられますようお願いいたします。

▽日時

8月6日(土) 広島市原爆の日

午前8時15分から1分間

8月9日(火) 長崎市原爆の日

午前11時2分から1分間

8月15日(月) 全国戦没者追悼式

正午から1分間

フレッシュ

ボイス

市内初の老人保健施設として5月1日オープンした「グリーンコート三愛」。ここに勤めて3か月の彩さんは今春、札幌にある福祉関係の専門学校を卒業したばかり。まだ緊張の続く毎日だが、「本当に自分がやりたい仕事に就くことができました」と明るく話す。

ケアワーカーとして働く彩さんの仕事は、体の弱いお年寄りの機能回復訓練や食事、入浴サービスなど盛りだくさん。

「入浴後、お年寄りから『気持ちよかったよ』とニコリ話してくれる時が最高にうれしいですね」と、グリーンコート三愛は、病院と老人施設の中間的な機能を備えている施設。「笑顔をお忘れず」をモットーに、若さと体力で頑張ります」と、元氣いっぱい彩さんは、お年寄りの人気者。

伊藤 彩さん (若草町・21歳★かに座) 医療法人社団「千寿会」グリーンコート三愛勤務





いっしょになっても 生涯学習

盲導犬と一緒に ボランティア

人々が自分の住む地域社会とのかかわりについて考えることや、住みよい社会にしていくための実践活動をすすめることは、大切な生涯学習の一つです。



▲恵寿園でマッサージのボランティア

中川さんは、登別視力障害者協会、登別市障害者福祉団体連絡協議会会長を務めながら、他の団体と連携し情報交換や親睦のためのレクリエーション、福祉についての研修など各種事業の企画、推進にあたっています。

また、養護老人ホーム恵寿園が開設されて、以来視力障害者協会と一緒毎年春夏の2回、ハリ・マッサージの治療慰問を続けており、お年寄りに大変喜ばれています。平成2年には、市の善行賞を受賞しました。



中川千代吉さん(富士町・70歳)

中川さんは、「路上に乱雑に置かれている自転車や違法駐車は、視力障害者にとってはとても危険です。駅のホームから転落する事故なども起こっているのので、困っている身障者を見つけ、助けを求めたい」と呼びかけています。

また、盲導犬については、「心身ともに一体で生活している同伴者です。早朝一緒に小鳥の声を聞きながら自由に散歩を楽しめ、うれしさは計り知れないものがあります」と、愛犬ロディへの感謝を忘れない中川さんです。

(生涯教育推進室)

鬼大使 FAX 通信...③



秋田美美子さん
(東京都練馬区在住)
(プロフィール)
東京登別げんきかい幹事。
平成4年11月から登別市ふるさと大使。登別市出身。
(旧姓:伊奈美美子さん)

ふるさと登別

夏休みのころになると、いつもふるさとの海や山のおいしい空気を吸ってみたいくなります。

なごみます。都会のお年寄りよりも、地方に住むお年寄りの方が、表情が明るく、いきいきと見えます。

都会に住んで30年、両親や兄弟が登別におりますので、帰郷する機会も比較的多いほうです。近年、帰るたびにめざましい発展が見られ、とても頼もしく拝見しています。また、東京でも市の広報紙などを見ることで、新しいふるさと情報を楽しみにしています。

豊かな自然に囲まれ、健やかにくらするまちづくりをふるさと登別に期待しています。

7月2日、東京都内で行われた、東京登別げんきかい第8回情報交換会の様子。



観光地としてとても有名な登別の住みよいまちづくりに、市民の積極的な参加が見られるのが、とても良いことと思います。私も、首都圏の登別出身者が集う「東京登別げんきかい」に設立当初から係わっており、銀座で鬼サミットのアンケートを取ったことや、ふるさとツアーで子供達と楽しい交流をしたことなどが印象に残っています。

鬼大使(ふるさと大使)は登別市にゆかりのある首都圏や海外在住者に情報収集と登別のPRを任命している制度です。

鷺別町内で、最も早く開けた地方は、鷺別神社の北側、鷺別川西方のなだらかな丘陵地です。

現在でも、西北の寒い方を背にして、暖かい太陽の恩恵を受ける南東向きに窓を向けますが、江戸時代初期「わしへつはシシャインの持ち場」として5・6戸の家がこの地方にあったのでしよう。

当時の鷺別川は、現在想像も出れないほどの深い森林に被われ水量も豊かで、春・夏はマス、秋にはサケが大群を作り鷺別川をのぼりました。

明治・大正期にも鷺別川からワシベツライバ川を通り新生町・富岸町の方まで、マスやサケが沢山のぼっていたようです。

鷺別岬付近の海は魚の宝庫です。江戸時代「遠山金四郎のクジラの潮吹き風景」の記録は勿論、岩礁に生息していたウニ・アワビ・ツブ・ナマコ、前浜のカレイ・イワシ・スケトウタラ・ソイ、沖合のメヌキ・カジキマグロ・サメなどの群遊魚も多かったのです。

また、豊富な水量を湛えた鷺別川の川口は立派な漁港としての役割を果たし、鷺別岬名物のローソ

郷土史 点描

51

宮武 紳一 登別郷土文化研究会

鷺別町を訪ねて……その2

漁業のまち・砂丘から砂鉄産業へ

ク岩も現在の防潮堤の所に屹立していました。この名物岩も、第二次大戦後、道から漁港整備の指定を受け防潮堤工事の時に破壊されたのは残念な事でした。

さて、明治3年片倉家臣らが

最初に鷺別に
入植した所は
美園町3・5
丁目から室蘭
高砂町3丁目
にかけてです
が、明治5年
(1872年)
室蘭から鷺別、
札幌へ通じる
札幌本道が開
設すると、往
来の多い現在



▲鷺別海岸の砂鉄採掘の一風景

を燃やしました。明治8年(1875)蚕を育て繭をとったところが好結果を得たので桑の木を白石から取りよせたり、野生の桑の木を現在の鷺別神社付近から、日の出市場の高

台の方向に桑園(札幌にも桑園の地名が残っている)をつくり養蚕業に尽くしたが、気候不順のため桑の葉の乾燥も不十分で蚕は病気がかり失敗しました。さて、鷺別町は現在、国道の高さで平坦になつていようですが、前回は記述したように、鷺別町2・5丁目は高い砂丘地帯と、その中

た路が昔の国道の高さであると黒沢友義氏が話してくれました。一方、鷺別町の砂丘は、おおよそ国道沿いに鷺別小学校の方まで続き、また、鉄道官舎の方にも発達してました。「国道横の砂丘は、子供達の遊び場で、冬は楢すべりをした思い出の場所。『三つ山っ子・やまっこ』などと呼ばれた砂丘群であること。昔の学校は、掃除はするがいつも砂だらけであったこと」なども黒沢氏は話してくれました。

鷺別の砂丘の発達は、思わぬ所から産業の開発がありました。それは砂鉄鉱の採掘です。鷺別の砂鉄鉱は、噴火湾系の砂鉄で、チタン含有量が約10%と低く磁鉄鉱として利用され、鷺別岬から幌別川付近まで、海岸の汀線から約200・300mの範囲で砂丘、砂地中に砂鉄が濃集していました。地表から2・3mの間は砂鉄と砂層が交互しその下部は磁鉄鉱。含有率97・5%の高品質で露天掘りをしたり原鉱を精製したり、鉱業所も5・6社はあったが中には小・中学校の夏休みのグラウンドの採掘も休み中に終了しないと大騒ぎしたこともありました。

鷺別の農業開拓の特色に、明治7年、浜側に牛舎がつくられ、開拓使から牛2頭を借りて、耕作機具プラウによる西洋式鋤耕の方法が牛により試みられています。また、片倉家の故郷白石は、和紙・うめん・生糸が「白石三白」と言われる特産品で、旧家臣らは鷺別でも故郷の生糸の生産に情熱

を蛇行して鷺別川が流れ、多くの沼地をつくり、草深い低湿地帯であったことは、前号の写真図のとおりで地形も複雑でした。鷺別橋からの国道の高さが、現在の鷺別町の平均的高さのようですが、昔の国道は、今より約3倍程は低かったようです。鷺別町6丁目黒沢商店横を浜の方に下がる路、3丁目の透禅寺方向に下がっ

先月号の写真説明で(明治29年図)とあるのは、(昭和29年撮影)の誤りです。お詫びして訂正します。

まちかどぶらり



公衆電話ボックス

川上公園 桜木町

川上公園駐車場にお
が設置しました。アンチ
しゃれな電話ボックス
がお目見えしました。
野球場の完成で、川
上公園の整備はほぼ完
了。訪れる市民に不便
を掛けないようにと市
が設置しました。アンチ
ックな装飾ボックスは、
茶色でスチール製。
「川上公園」と金色の文
字が刻まれ市章をあしら
っています。大事に使っ
てください。

人のうごき

- 人口 57,027(-7)
- 世帯 20,898(-2)
- ()は前月比

平成6年6月30日現在

鳥名 ヤマセミ
観察時期 年中



(文・写真提供 日本野鳥の会会員ヨシキリの会)

▷問い合わせ 伴野さん(☎7515)

僕はヤマセミ。山地の溪流
に住み、長くて強いクチバンで魚
を取って食べるんだ。体の大きさはハ
ト位だけど、白黒まだら模様の中と頭の
羽毛は長く、立派な冠羽になるんだよ。
僕らの巣はカワセミ君と同じく、切り立った
崖の土に穴を掘るんだけど、へびに狙われない
よう神経を使うんだ。

3年前の夏、川で親子5羽が仲むつまじく魚
を食べたり、水浴びをしている姿をヨシキリの
会の人が目撃して、ずいぶん感激していたようだ
けど、あれはつかの間の一家団らんなんだ。1
週間の教育期間が過ぎると、子供達をクチバン
で突き回し、情け容赦なく僕ら夫婦の縄張りか
ら追い出すんだ。出された我が子は新天地を
求めて、キヤラキヤラと鳴きながら川沿いに
飛んで行くけど、今の御時世、天然の川
が少ないので、生き抜いているのか心
配なんだ。まあ、トリ越し苦労し
ても仕方ないから無事を
信じているよ。



発行 北海道登別市(中央町6-11) ☎0143-851130
編集 総務部総務課広聴広報係・通巻50号



この広報紙は再生紙を使用しています。